

## 浜の活力再生プラン

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	浜名地区地域水産業再生委員会
代表者	会長 河合 和弘

再生委員会の構成員	浜名漁業協同組合、浜松市、湖西市
オブザーバー	静岡県（静岡県水産技術研究所浜名湖分場）

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	シラス船曳網漁業（61 経営体）、採貝（599 人） 定置網（165 人）、タキヤ（80 人）
-------------------	--

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

浜名漁業協同組合の管内では、遠州灘におけるシラス船曳網等、浜名湖内でのアサリ採貝、小型定置網をはじめ様々な漁業が営まれている。水揚げ量の大半はシラスとアサリが占め、平成 25 年の水揚げ量は、シラス 2,287 トン、アサリ 1,404 トンで、全水揚げ量の 78%であった。シラス船の乗組員にはアサリ採貝を副業とするものも多く、シラス船曳網とアサリ採貝は、管内でも特に重要な魚種となっている。また、地区の主な水揚げ魚種は 30 種類に及んでおり、これらの多種多様な漁獲を支える小型定置網・タキヤなどの漁業を維持していくことも重要な課題である。特にタキヤ漁は、夜間に灯火で集めた魚を船上からモリで突く独特な伝統漁法であり、伝統の継承は地区の大きな課題である。

当地区の水産業をとりまく課題として、近年はシラスの漁獲量の変動が大きく、不安定である。また、アオサの発生やアサリの天敵であるツメタガイやアカエイの増加などアサリの漁場環境にも変化が見られ、アサリ漁業の持続も脅かされるようになってきている。さらに、全漁業種に共通の課題として、組合員は高齢化しており、後継者の確保が重要であるが、操業コスト高と魚価安により新規就業者の確保が困難となっている。特に、小型定置網漁業は経営規模が零細であるため、組合員は減少の一途をたどっている。操業コストを抑えると同時に魚価を向上させる取組等、早急な対策が必要となっている。

また、シラス等の水揚げ量の増加に伴い平成 4 年に埋立て建設した舞阪漁港や船揚場、製氷施設等の設備が老朽化しており、維持管理費が増加している。加えて、強まる食の安心・安全に対する消費者ニーズに対応するため望ましい衛生・管理施設への整備対応も課題となっている。

浜松市では、水産業団体、学識経験者、消費者団体等による専門会議・作業部会を重ねて、基本理念「やらまいか！元気でにぎわいのある浜松の水産業」を目指し、10 年後の水産業の 4 つの将来像と数値目標を定めた「平成 21 年～30 年度水産業振興計画」を策定した。基本計画は、効率的な経営改善活動と新たな担い手の就業を支援するとと

もに産業基盤整備事業を進め、生産技術力の強化による高付加価値化・地域の活性化を目指すものである。

## (2) その他の関連する現状等

観光庁は、観光圏整備法に基づく全国13地域の観光圏整備実施計画を認定しており、浜松市・湖西市が策定した「浜名湖観光圏～うみ（浜名湖）の真ん中に立ってみる～」を平成26年7月に認定した。本計画に基づき、海と川が織りなす浜名湖の価値を背景にした豊富な食材としての魚介類や豊かな干潟と様々にふれあうことを強みとした観光圏整備が今後5年間展開される。

また、東日本大震災を踏まえ、埋立て建設による出島形状の舞阪漁港の地震・津波防災の強化は重要な課題であり、安全で安心な施設整備を進める必要がある。

## 3 活性化の取組方針

### (1) 基本方針

近年、当地域の漁業は燃油高騰などにより経営コストが増大しているだけでなく、地球温暖化の影響による海水温の上昇が原因とみられるシラス漁の漁期のずれ、アオサの発生、ツメタガイの増殖等によるアサリの漁獲量減少と厳しい環境におかれている。さらに水揚高の減少により、漁業の就業者の減少、後継者不足が深刻な問題となっている。

こうした状況に対応するため、以下の取組みにより漁業収入の向上を目指し、漁業を就業したい魅力ある産業としていく。

#### ①資源確保、漁場の再生策

- ・採苗ネットによる天然種苗生産や、陸上施設での人工種苗生産によるアサリの資源増殖を実施する。
- ・アカエイやアオサ除去による漁場環境保全、クルマエビ等の種苗放流による漁獲量増大を図る。

#### ②イベントの実施、最新設備導入による水産物の付加価値向上

- ・朝市や料理教室等、地区のイベントを通して水産物やタキヤ漁をPRし、魚価の向上を図る。
- ・老朽化した製氷施設を修繕して氷の供給を容易にし、鮮度保持に寄与する。（なお、本取組は、現状よりも省エネタイプの製氷施設を導入することとなるため、電気代等の節約につながり、コスト縮減にも資する。）

#### ③省燃油活動等による燃油コスト軽減

- ・「沿岸シラスの最適漁場探索ツール」を利用し、減速航行により省燃油を図る。
- ・船揚場を修繕し、船底清掃の実施を推進する。
- ・漁業経営セーフティネットへの加入を推進する。

### (2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

①静岡県海域における浜名漁業協同組合のしらす資源管理計画を実施する。

②あさり漁業者は採貝連合会規約、同操業規則を定め操業制限をする。（採捕量、漁獲

サイズ、操業時間、休漁日、禁漁区等の設定)

- ③袋網漁業者は、袋網漁業条件（漁業調整規則による漁獲物サイズ制限、休漁期等）を守り操業する。

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成27年度）

取組内容は、取組の進捗状況や得られた成果等を踏まえ必要に応じ見直すこととする。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組により、漁業収入を基準年から1%増加させる。</p> <p>&lt;資源管理対策&gt;</p> <p>①採貝漁業者は着定基質を入れた採苗ネットを浜名湖沿岸に設置し、アサリ天然採苗を行う。</p> <p>②アサリ漁業者は漁協等と連携してパトロールなどを行うことにより、アサリの密漁を監視し、適切な採捕の指導を行う。また、アサリ漁業者は、1日3本（66kg）までの漁獲自主制限に努める。これらの取組により、資源の維持を図る。</p> <p>③タキヤ漁業者は、アサリを食害し操業の安全を脅かすアカエイを駆除する。効率的にアカエイを駆除するための工夫として、水産技術研究所と協力し湖内における生態調査を実施する。</p> <p>④袋網漁業者は、クルマエビ、ガザミ、ノコギリガザミ等の種苗を購入して放流し、資源増大に取り組む。放流種苗の生残率を高めるための工夫として、水産技術研究所と協力し放流場所の適地調査などを実施する。</p> <p>&lt;普及振興対策&gt;</p> <p>① 舞阪港で定期的に行われている「えんばい朝市」に積極的に参加し、生シラスを販売したり、地元仲買人と協力し鮮魚や干物などの加工品を直売して消費者ニーズを把握する。</p> <p>② 浜松市及び湖西市の小学校等での魚料理教室、浜名湖で開催されるさまざまなイベントと連携した試食会等を開催し、地域での魚食普及を図る。</p> <p>③ 浜松商工会議所が進める農水商工連携「浜松産の食材でヒット商品を作ろう」に参画し、地元水産物の高付加価値化を検討する。</p> <p>④ 老朽化が進む製氷施設を修繕することより、現状よりも漁獲物に対して氷をスムーズにトラブルなく必要なときに適時、供給し、鮮度保持を狙う。</p> <p>⑤ タキヤ漁業者のホームページ活用でタキヤ漁をPRし、観光協会とも協力してタキヤ漁体験の乗客増加を図る。たきや漁は、</p>
---------------------	--

	<p>小さなかぶせ網と突き棒の二つの道具を用いて、突いて獲る浜名湖独自の伝統漁法であり、夜間松明（たいまつ）を燃やして光源としていたことからタキヤとよばれるようになった。体験乗船は、夜間操業のみで、漁獲した魚を使って筏で宴会が可能である。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により、漁業コストを基準年から3%削減する。</p> <p>①水産総合研究センター、静岡県水産技術研究所等が開発している「沿岸シラスの最適漁場探索ツール」の導入を検討する。</p> <p>②水抵抗が少ない船底塗料の導入を検討する。</p> <p>③現在は老朽化して船の上架が容易でない船揚げを修繕し、船底清掃や塗料の塗布ができる船舶を増加させる。</p> <p>④燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築への加入を推進する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二枚貝資源緊急増殖対策事業</li> <li>・静岡県浜名湖監視指導業務委託事業</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業</li> <li>・省燃油対策推進事業</li> </ul>

2年目（平成28年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組により、漁業収入を基準年から3%増加させる。</p> <p>&lt;資源管理対策&gt;</p> <p>①採貝漁業者は着定基質を入れた採苗ネットを浜名湖沿岸に設置し、アサリ天然採苗を行う。</p> <p>②アサリ漁業者は漁協等と連携してパトロールなどを行うことにより、アサリの密漁を監視し、適切な採捕の指導を行う。また、アサリ漁業者は、1日3本（66kg）までの漁獲自主制限に努める。これらの取組により、資源の維持を図る。</p> <p>③タキヤ漁業者は、アサリを食害し、操業の安全を脅かすアカエイを駆除する。効率的にアカエイを駆除するための工夫として、水産技術研究所と協力し湖内における生態調査を実施する。</p> <p>④袋網漁業者は、クルマエビ、ガザミ、ノコギリガザミ等の種苗を購入して放流し、資源増大に取り組む。放流種苗の生残率を高めるための工夫として、水産技術研究所と協力し放流場所の適地調査などを実施する。</p> <p>&lt;普及振興対策&gt;</p> <p>①舞阪港で定期的に行われている「えんばい朝市」に積極的に参</p>
---------------------	--

	<p>加し、生シラスを販売したり、地元仲買人と協力し鮮魚や干物などの加工品を直売して水産物消費の拡大を図る。</p> <p>②浜松市及び湖西市の小学校等での魚料理教室、浜名湖で開催されるさまざまなイベントと連携した試食会等を開催し、地域での魚食普及を図る。</p> <p>③浜松商工会議所が進める農水商工連携「浜松産の食材でヒット商品を作ろう」に参画し、地元水産物の高付加価値化を検討する。</p> <p>④老朽化が進む製氷施設を修繕することより、現状よりも漁獲物に対して氷をスムーズにトラブルなく必要なときに適時、供給し、鮮度保持を狙う。</p> <p>⑤タキヤ漁業者のホームページ活用でタキヤ漁をPRし、観光協会とも協力してタキヤ漁体験の乗客増加を図る。たきや漁は、小さなかぶせ網と突き棒の二つの道具を用いて、突いて獲る浜名湖独自の伝統漁法であり、夜間松明（たいまつ）を燃やして光源としていたことからタキヤとよばれるようになった。体験乗船は、夜間操業のみで、漁獲した魚を使って筏で宴会が可能である。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により、漁業コストを基準年から10%削減する。</p> <p>①水産総合研究センター、静岡県水産技術研究所等が開発している「沿岸シラスの最適漁場探索ツール」の導入を検討する。</p> <p>②水抵抗が少ない船底塗料を導入する。</p> <p>③現在は老朽化して船の上架が容易でない船揚場を修繕し、船底清掃や塗料の塗布ができる船舶を増加させる。</p> <p>④燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築への加入を推進する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二枚貝資源緊急増殖対策事業</li> <li>・静岡県浜名湖監視指導業務委託事業</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業</li> <li>・省燃油対策推進事業</li> </ul>

3年目（平成29年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組みにより、漁業収入を基準年から5%増加させる。</p> <p>&lt;資源管理対策&gt;</p> <p>①採貝漁業者は着定基質を入れた採苗ネットを浜名湖沿岸に設置し、アサリ天然採苗を行う。（採苗ネット中のアサリ稚貝を計数し、ネットの設置場所等を改めて検討する。）</p> <p>②アサリ漁業者は漁協等と連携してパトロールなどを行うこと</p>
---------------------	--

	<p>により、アサリ密漁を監視し、適切な採捕の指導を行う。また、密漁防止に向けた対策として注意喚起のための看板設置を行う。</p> <p>さらに、アサリ漁業者は、1日3本（66kg）までの漁獲自主制限に努める。これらの取組により、資源の維持を図る。</p> <p>③タキヤ漁業者は、アサリを食害し、操業の安全を脅かすアカエイを駆除する。効率的にアカエイを駆除するための工夫として、水産技術研究所と協力し湖内における生態調査を実施する。</p> <p>④袋網漁業者は、クルマエビ、ガザミ、ノコギリガザミ等の種苗を購入して放流し、資源増大に取り組む。放流種苗の生残率を高めるための工夫として、水産技術研究所と協力し放流場所の適地調査などを実施する。</p> <p>&lt;普及振興対策&gt;</p> <p>①舞阪港で定期的に行われている「えんばい朝市」に積極的に参加し、生シラスを販売したり、地元仲買人と協力し鮮魚や干物などの加工品を直売して水産物消費の拡大を図る。</p> <p>②浜松市及び湖西市の小学校等での魚料理教室、浜名湖で開催されるさまざまなイベントと連携した試食会等を開催し、地域の魚食普及を図る。</p> <p>③浜松商工会議所が進める農水商工連携「浜松産の食材でヒット商品を作ろう」に参画し、地元水産物の高付加価値化ができる商品を開発する。</p> <p>④老朽化が進む製氷施設を修繕することより、現状よりも漁獲物に対して氷をスムーズにトラブルなく必要なときに適時、供給し、鮮度保持を狙う。</p> <p>⑤タキヤ漁業者のホームページ活用でタキヤ漁をPRし、観光協会とも協力してタキヤ漁体験の乗客増加を図る。たきや漁は、小さなかぶせ網と突き棒の二つの道具を用いて、突いて獲る浜名湖独自の伝統漁法であり、夜間松明（たいまつ）を燃やして光源としていたことからタキヤとよばれるようになった。体験乗船は、夜間操業のみで、漁獲した魚を使って筏で宴会が可能である。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により、漁業コストを基準年から15%削減する。</p> <p>①水産総合研究センター、静岡県水産技術研究所等が開発している「沿岸シラスの最適漁場探索ツール」を導入し、シラス漁船の減速航行を推進する。</p> <p>②水抵抗が少ない船底塗料を導入する。</p>

	<p>③現在は老朽化して船の上架が容易でない船揚場を修繕し、船底清掃や塗料の塗布ができる船舶を増加させる。</p> <p>④燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築への加入漁業者増加を図る。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二枚貝資源緊急増殖対策事業</li> <li>・静岡県浜名湖監視指導業務委託事業</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業</li> <li>・省燃油対策推進事業</li> <li>・浜の活力再生交付金水産業強化支援事業</li> </ul>

4年目（平成30年度）

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組みにより、漁業収入を基準年から8%増加させる。</p> <p>&lt;資源管理対策&gt;</p> <p>①採貝漁業者は着定基質を入れた採苗ネットを浜名湖沿岸に設置し、アサリ天然採苗を行う。（採苗ネット中のアサリ稚貝を計数し、ネットの設置場所等を改めて検討する。）</p> <p>②アサリ漁業者は漁協等と連携してパトロールなどを行うことにより、アサリ密漁を監視し、適切な採捕の指導を行う。また、アサリ漁業者は、1日3本（66kg）までの漁獲自主制限に努める。これらの取組により、資源の維持を図る。</p> <p>③タキヤ漁業者は、アサリを食害し、操業の安全を脅かすアカエイを駆除する。効率的にアカエイを駆除するための工夫として、水産技術研究所と協力し湖内における生態調査を実施する。</p> <p>④袋網漁業者は、クルマエビ、ガザミ、ノコギリガザミ等の種苗を購入して放流し、資源増大に取り組む。放流種苗の生残率を高めるための工夫として、水産技術研究所と協力し放流場所の適地調査などを実施する。</p> <p>&lt;普及振興対策&gt;</p> <p>①舞阪港で定期的に行われている「えんばい朝市」で直売を継続して水産物をPRすると共に、ポスターやビラを活用して朝市のPRに努めて来客の増加を図り、さらに水産物消費を拡大する。</p> <p>②浜松市及び湖西市の小学校等での魚料理教室、浜名湖で開催されるさまざまなイベントと連携した試食会等を開催し、地域での魚食普及を図る。</p> <p>③浜松商工会議所が進める農水商工連携「浜松産の食材でヒット</p>
--------------	--

	<p>商品を作ろう」に参画し、地元水産物の高付加価値化ができる商品を開発する。</p> <p>④老朽化が進む製氷施設を修繕することより、現状よりも漁獲物に対して氷をスムーズにトラブルなく必要なときに適時、供給し、鮮度保持を狙う。</p> <p>⑤タキヤ漁業者のホームページ活用でタキヤ漁をPRし、観光協会とも協力してタキヤ漁体験の乗客増加を図る。たきや漁は、小さなかぶせ網と突き棒の二つの道具を用いて、突いて獲る浜名湖独自の伝統漁法であり、夜間松明（たいまつ）を燃やして光源としていたことからタキヤとよばれるようになった。体験乗船は、夜間操業のみで、漁獲した魚を使って筏で宴会が可能である。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>以下の取組により、漁業コストを基準年から15%削減する。</p> <p>①水産総合研究センター、静岡県水産技術研究所等が開発している「沿岸シラスの最適漁場探索ツール」を導入し、シラス漁船の減速航行を推進する。</p> <p>②水抵抗が少ない船底塗料の使用をさらに推進する。</p> <p>③現在は老朽化して船の上架が容易でない船揚げを修繕し、船底清掃や塗料の塗布ができる船舶を増加させる。</p> <p>④燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築への加入漁業者増加を図る。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二枚貝資源緊急増殖対策事業</li> <li>・静岡県浜名湖監視指導業務委託事業</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業</li> <li>・省燃油対策推進事業</li> </ul>

#### 5年目（平成31年度）

最終年であり以下の取組を引き続き行うが、目標達成を確実なものとするようプラン取組の成果を検証し必要な見直しを行うこととする。

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組により、漁業収入を基準年から10%増加させる。</p> <p>&lt;資源管理対策&gt;</p> <p>①採貝漁業者は着定基質を入れた採苗ネットを浜名湖沿岸に設置し、アサリ天然採苗を行う。（採苗ネット中のアサリ稚貝を計数し、ネットの設置場所等を改めて検討する。）</p> <p>②アサリ漁業者は漁協等と連携してパトロールなどを行うことにより、アサリ密漁を監視し、適切な採捕の指導を行う。また、アサリ漁業者は、1日3本（66kg）までの漁獲自主制限に努める。これらの取組により、資源の維持を図る。</p>
--------------	--



	<p>③タキヤ漁業者は、アサリを食害し、操業の安全を脅かすアカエイを駆除する。効率的にアカエイを駆除するための工夫として、水産技術研究所と協力し湖内における生態調査を実施する。</p> <p>④袋網漁業者は、クルマエビ、ガザミ、ノコギリガザミ等の種苗を購入して放流し、資源増大に取り組む。放流種苗の生残率を高めるための工夫として、水産技術研究所と協力し放流場所の適地調査などを実施する。</p> <p>&lt;普及振興対策&gt;</p> <p>①舞阪港で定期的に行われている「えんばい朝市」で直売を継続して水産物をPRすると共に、ポスターやビラを活用して朝市のPRに努めて来客の増加を図り、さらに水産物消費を拡大する。</p> <p>②浜松市及び湖西市の小学校等での魚料理教室、浜名湖で開催されるさまざまなイベントと連携した試食会等を開催し、地域での魚食普及を図る。</p> <p>③浜松商工会議所が進める農水商工連携「浜松産の食材でヒット商品を作ろう」で作成した商品の販売を促進する。</p> <p>④老朽化が進む製氷施設を修繕することより、現状よりも漁獲物に対して氷をスムーズにトラブルなく必要なときに適時、供給し、鮮度保持を狙う。</p> <p>⑤タキヤ漁業者のホームページ活用でタキヤ漁をPRし、観光協会とも協力してタキヤ漁体験の乗客増加を図る。たきや漁は、小さなかぶせ網と突き棒の二つの道具を用いて、突いて獲る浜名湖独自の伝統漁法であり、夜間松明（たいまつ）を燃やして光源としていたことからタキヤとよばれるようになった。体験乗船は、夜間操業のみで、漁獲した魚を使って筏で宴会が可能である。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により、漁業コストを基準年から15%削減する。</p> <p>①水産総合研究センター、静岡県水産技術研究所等が開発している「沿岸シラスの最適漁場探索ツール」の導入し、シラス漁船の減速航行を推進する。</p> <p>②水抵抗が少ない船底塗料の使用をさらに推進する。</p> <p>③現在は老朽化して船の上架が容易でない船揚げを修繕し、船底清掃や塗料の塗布ができる船舶を増加させる。</p> <p>④燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築への加入漁業者増加を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>・二枚貝資源緊急増殖対策事業</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 静岡県浜名湖監視指導業務委託事業</li> <li>・ 水産多面的機能発揮対策事業</li> <li>・ 漁業経営セーフティネット構築事業</li> <li>・ 省燃油対策推進事業</li> </ul>
--	--

(4) 関係機関との連携

静岡県水産技術研究所や浜松市、湖西市等と積極的に連携を図る。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上 %以上	基準年（平成 年度） 漁業所得	千円
	目標年（平成 年度） 漁業所得	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
二枚貝資源緊急増殖対策事業	アサリ天然種苗の実施
静岡県浜名湖監視指導業務委託事業	密漁者取締りによる資源保護の実施
水産多面的機能発揮対策事業	アカエイ駆除、アオサ除去による漁場環境改善の実施
漁業経営セーフティネット構築事業	燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置
省燃油活動推進事業	消費燃油量の削減（漁船船底清掃による抵抗軽減）
浜の活力再生交付金水産業強化支援事業	密漁防止対策として看板設置